

2016 年度活動方針

1. あいコープと共生会会員の双方で世代交代が進む中、食を軸として共に生きていく仲間である生産者とあいコープとの絆を、次世代に継承する活動を I 耕塾を中心に取り組みます。あいコープみやぎ2020年ビジョンの推進に協力します。

2. 生協組合員との交流を促進します。交流の場では、供給商品についての情報だけでなく、原料事情など生産者が直面している問題や食の背景についても生協組合員に伝え共に考えます。

特に組合員の関心が高い「市販品との違い」や「農薬、添加物」について繰り返し伝える努力をします。

3. 10月30日 Wa!わぁ祭り（仙台市卸商サンフェスタ）、12月4日あいコープまつり（郡山市ビッグパレット）に参加します。

4. あいコープ商品部との協働を強め、商品開発提案、品質管理レベルの向上、販促企画提案に取り組みます。「もう一品の利用増」＝生協の供給高アップを目指して、「生協の商品で暮らすには」を組合員と共にもう一度考えます。

お申し出については、商品部を通じて組合員が納得できるレベルの回答をするとともにお申し出の真因を解明することを通じて安全安心のレベルを上げて行きます。

5. 3月5日に開かれるGMOフリーゾーン運動全国交流集会 in みやぎに参加します。GMOフリーゾーン運動を推進します。

6. 原発再稼働に反対します。とくに30km圏内、60kmでは仙台市も被害をまぬがれない女川原発再稼働反対の活動に取り組みます。

水源地で進められようとしている国の放射性指定廃棄物最終処分場建設計画に反対します。宮城県内では栗原市・加美町・大和町三ヶ所が候補地にあげられましたがいずれも田畑、飲み水の水源汚染に関わる地域であり、昨年末の宮城県主催の市町村長会議で三自治体とも候補地返上を宣言しています。三候補地の反対運動に連帯します。

六ヶ所核燃再処理工場の本格稼働に反対します。

生産者自らが自分たちの暮らしや生産における省エネルギー、再生可能エネルギー導入の取り組みを共生会ニュースなどを通して学び合い、生協組合員へも発信していきます。

あいコープみやぎはエネルギーの地産地消を目指し、電力自由化を受けて再生可能エネルギーを電源とした「電気の共同購入」を模索しています。この取り組みに会員の積極的な参加を呼び掛けます。

7. 東日本大震災と東京電力福島第一原発事故と向き合い、生産者として被災地復興で必要とされる事業の存在意義を明確にします。東日本大震災と福島第一原発事故から 5 年目を迎えようとしています。被災地や原発避難者に寄り添える支援活動を物心両面から模索します。

8. 石けん運動に取り組みます。加工場・生産機械・農機具・家庭に至るまで食品への混入、排水から河川、海への放流にまで生産者、帳合い問屋が自らが水や資源、身体のことを考えた生産や生活を目指します。

9. TPP 合意によって、政治的・経済的・社会的情勢は「食の自給と安全」や「地場生産地場消費」がますます困難になることが予想されます。その中で安全安心を貫く事業の継続に必要な会員各々の「構想・計画」を共に模索し知恵を出し合い深める場をつくります。